

0564

0431

昭和二十二年五月起稿

第三十三特別根據地隊戰鬥情況

自昭和十九年八月五日  
至昭和二十年八月三十一日

第三十三特別根據地隊參謀  
海軍大佐 志 柳 謙 吉

0432

一 終戦後既ニニテ年ヲ経過シ利ハ敗戦ノ苦闘ト夜勵ニ慍ヲサ  
 レタルヲ以テ記憶朦朧トシテ定カテラズサレ所アリ  
 加之外戦記録等至要資料ハ或ハ戦果ヲ蒙リ或ハ終戦時  
 燒却セルヲ以テ頼ルベキモノモナシ  
 其史實調査部編纂本第二次世界大戦略曆(乙)第一号及  
 第三十五軍參謀長友近美晴著<sup>軍</sup>參謀長ノ手記ヲ基礎  
 トシテ自己ノ記憶ヲ辿リワ、草稿僅カニ山賀守治譯キ  
 ニグ元帥報告書ヲ多クトヒリ若干ノ誤ハ之ヲ寛恕セラレ度  
 ニ作戦記録モ一徹ニ都合悪キ所ハ若干ノ工作ヲ施スヲ免レズ  
 然レ兵斯ノテハ將來ノ參考トシテ價値乏シク<sup>新</sup>古ノ未  
 嘗有ノ敗戦ヲ転ジテ精強日本トナスノ資料價値ハ正シク  
 赤裸々ノ記述ヲサザル可ク

3a

9950

0433

從つて或ハ關係各部ノ指彈ヲ免レズト思惟ス能ルニ付機密  
扱トナレ度

其人物ノ批判ハ半ヲ遊ケルヲ要ス特ニ上司ノ批判ハ軍紀嚴重  
ク標榜セシ日本海軍ニ於テハ絶対ヲ許サズナリ  
其年々戰ノ勝敗軍ノ精練ノ根幹ヲナシテ小統率者其ノ  
人ヲ博覧強記ニ存ス 故ニ 從テ

此ノ敗戦ノ記録ヲ敢テ入ルヨリ其ノ批判ヲ試ミ  
ナ其間ノ情況経緯ヲ明カニスル為メ長ク願フニ非ズ

三四 本記録ハ成ク々々當時ノ實情ヲ描寫スルニ努ム 從テ項目ニ  
別ケテ整理シ意味乾燥トナルヲ防避ケ成ルニ付日記的記  
述ヲ選ブナストセリ 小生ヲ見テ準トシテ記述スル件又  
諒トモナレ度

目次

第一 第三十三特別根據地隊編制並進出

第二 司令部並出當時ノ中蘇地區兵力配備並其情況

一 海軍部隊ノ配備

二 陸軍部隊ノ配備

三 防備狀況

第三 作戰準備

一 司令部設置

二 施設設置防備促進

第十八師團トノ作戰協定

陸軍部トノ地區陸軍トノ作戰協定

第四 中蘇地區大空軍

一 空軍前ノ情況

一頁、三、九、二、二、三、五、七、〇

5a  
口

0435 8950

二 敵K9空軍

三 空軍部隊ノ配置

第五 中北蘇地区大空軍

一 北蘇地区大空軍

二 在ソマリヤ陸下部隊ノ配置

三 中蘇地区大空軍

第六 敵レイテ島未攻

一 敵未攻前ノ情況

二 敵未攻

第七 コレイテ決戦

一 陸軍コレイテ決戦ニ至ル経緯

二 敵ノ兵力集中情況

三 我軍ノ兵力集中情況

五九 五八 五七 四六 四一 四一 三九 三八 三七 二七 二一

6a

0569

0436

- 四 我海軍ノ外戦
  - 五 當隊ノ特殊潜航艇ヲ以テスル外戦支援
  - 六 陸上戦闘ノ搬送
    - (イ) 北方戦線
    - (ロ) 南方戦線
    - (ハ) 和洋外戦
  - 七 総敗退
    - (イ) 敵ヲオモツク上陸
    - (ロ) 和洋外戦ノ放棄
  - 八 海軍部隊ノ奮戦ノ記録
    - (イ) タラウロバン 派遣隊
    - (ロ) オルモツク 通信隊
    - (ハ) 「バレンシヤ」海軍台湾巡查隊

六七  
七七〇  
七九  
八一  
八三  
八七  
八七  
九一  
九二

7a

0570

0437

第八、ロングナオ、海外戦

作戦準備

- (二) 海軍陸戦隊
- (ホ) 艦船遭難者
- (ハ) 第五魚雷隊

一、前前進基地ノ設置設定

二、ロングナオ、海外戦

第九、セブ島ノ戦闘

一、敵匿ノ情況

(イ) ロレイテ戦以前

(ロ) ロレイテ戦以後

(ハ) 敵ヲ来珠後

二、戦闘準備

九九九 九  
八五四 三

一〇一  
一〇二

一〇三

一〇四

一〇五

(1) 陸軍隊ノ編成ト陣地構築

(2) 陣地構築

(3) 兵器ノ利用ノ考察

(4) 陸戦移行準備

三、敵軍以前ノ情況

中、敵軍ノ陣地

五、陣地戦

四、指揮権

(1) 海陸軍同ノ指揮権

(2) 海軍ニ於テノ指揮権

五、敵軍ノ攻占

六、陣地戦

(1) 初期

一〇六

一一七

一二九

一三一

一三三

一三五

一三八

一四〇

一四二

一四四

一四六



9a

0572

0430

- 七. 転進休戦
  - (1) 後期
  - (2) 中期
- 八. 転進開始
  - (1) 転進
- 九. 第一次自決自戦
  - (1) 自決自戦
  - (2) 合戦奉還
- 十. 第二次転進
  - (1) 第一期転進
  - (2) 第二期戦斗

一四七  
 一四五  
 一五七  
 一六六  
 一八五  
 一九九  
 二〇三  
 二〇八

10a 0573 0440

十  
銃  
隊

- (六) 第二期転進
- (五) 後方部隊ノ情况
- (四) 第二期戦斗
- (三) 第三次転進
- (二) 第五次自決自戦
- (一) 第四次転進

二一〇  
二一三  
二一八  
二二〇  
二二一



日本土建工業株式会社

0524  
0441

第一 司令部

第一三特別根據地隊司令部編制表進出

第一三特別根據地隊司令部主要職名

司令部 少将 原田 覺

參謀長 中佐 志柿 謙吉

參謀 少佐 藤原 隆明

大尉 林 正

軍医長 中佐 久保 正 (遂着任 約二月後 在松村実有任)

主計長 主大尉 岡田 貞寛

兼副官

二 編成表

別表 第 11

三. 進出

昭和十九年八月五日編隊令並主要職責命令アリ  
軍令部海軍省ト打合ヒ上 同十六日横濱発

十八日マニラ着

GHF 駐司司令部ニ於テ打合ヒ上 二十三日マニラニ進出  
横濱上ノ艦隊編隊ニ付徳ヲ擧グ

一 海軍部隊ノ配備

(1) 在日地区

第二軍司令部進出當時ノ中蘇地区兵力配備並其情況

第三十六號部隊本部

司令 渡辺 中佐 (應召)

特務上層機関

第一三三防空隊 (三十五機銃 操縦士二十四名)

長 佐野 (特) 中尉

在日飛行場

第一百防空隊 (三十五機銃 操縦士十二名)

長 大床 (特) 中尉

特務附近 (九月以降 マンチウリアン 島陸軍飛行場ニ移ス)

0527  
0444

第三潜水艇基地隊

司令 吉村 毅 中佐

横橋附近

軍需部支那

支部長 榊原 圭少佐

横橋附近

工外部 (ハラス引揚者ヲモトメ)

長 那須 和太佐

横橋北方海岸

機空隊

司令 山本 繁下佐

飛行場

水上基地

七ノ港内ノ無人島

↑ 航空隊支隊 〇〇〇飛行場附近  
 第七魚雷隊 〇〇〇飛行場附近  
 ↑ 第十二魚雷隊 〇〇〇飛行場附近

司令 丹羽 少佐  
 〇〇〇北方隊外 リロピン

第三艦隊司令部

長 鈴木 大尉

〇〇〇飛行場

施設部

長 佐藤 大尉

〇〇〇市

右ノ外見張子ニ所介 〇〇〇島南方) 行ノモノ出飛

ヲ見合ヒアリ (理由、現地正確要ヲ不通ト、現地側ノ指シ意見アリ)

台湾山査隊

〇〇〇飛行場 〇〇〇山

0529

0446

ベコロド地区

第六十六警備隊分遣隊

東森

ベコロド市

東森

「イナシブガシ」

「タグバシハン」

軍需部倉庫

「ベコロド」

設営隊

「ライ」

「ビトルバガシ」

基地航空隊

「ライ」 「ビトルバガシ」



(ハ) マダガスカル地区

第九五防空隊(野戦高射砲四門) 長 水田(将)中尉

連綴基地隊 (寺田隊)

基地級空隊

軍需部支那

施設部出張隊

スルバシ見張

(ニ) マダガスカル地区

第三設営隊

長 片桐敏朗中佐

バレンシア飛行場(マダガスカル北方) 十月中旬以後マダガスカル

ン村山岸(カビネ岬) 移動

台湾巡查隊(バレンシア飛行場)

(ホ)「シカスビー」地区

「シカスビー」派遣隊

長 佐藤内四郎中佐(九月六日着任)

「シカスビー」南側  
「シカスビー」北側  
「シカスビー」派遣隊長井上(種少尉) 場野(少尉)

「シカスビー」飛行場 某(校団特)大尉

「シカスビー」飛行場

某 魚雷隊

「リボク」(「シカスビー」北方)

(ハ)「スリガオ」地区

「スリガオ」派遣隊

長 沼田(特)少尉(志呂)

「スリガオ」市 海岸地区

差支司令官在島時、舟中夜間、遠方配備、其情、  
及、島中、山、等、事、

海軍部隊

第一表 第一

陸軍部隊、配備

(1) 島

第三十五軍司令部、直轄部隊

防衛司令部

第一百二師團司令部 (八月末、イロイロ、二、防、部)

防衛司令部

大西部隊 (大分縣隊、独立、大隊)

光井部隊 (船、船)

船、船、隊、隊

ホホ、島、派、遣、部、隊、  
、  
、  
、  
、  
島、派、遣、部、隊

(ロ) ハナイ島

イロイロ防衛司令部

第百三師団司令部 (八月以降)

(イ) ネグロス島

飛行基地部隊  
ハコロド地区

第百一師団司令部

尾家部隊

ブマゲチ

(ハ) イナバ

第百六師団司令部

(ホ) サール島

第百六師団ノニケ中隊

三. 防備状況

の軍令部 艦隊司令部 には、防備敵未攻近レト見テ敵

シテ防備ヲ促進セラルモ 現地ニ於テハ、土防備ノ

ヤラサレカ如ク防備施設ハ全ク見ルベクニナリ。且、航空隊

寛後室ニ「コンクリート」製ノ一八分通完成セルミニテ、地ハ

待避壕アルミナリ

(1) 陸軍方面ニ於テハ、イナ島ニ於テハ着々本格的防備施設ヲ行

ヒ概未完成ニ近レ

トシ、島ニ於テハ戦闘司令部ハ堅固トシ、横弘式ナルモ陸地ハ

杉ノテ、簡單ナル敷キ壕敷見ユルニ止マル。匪賊ノ討伐ハ概テ

見テ之ヲ行ヒワ、アリ

他島又概未完成ノ島ニ因ジ

### 第三 作戰準備

#### 一 司令部設置

3K司令部は打合の階に根據地隊司令部ハ第三十六總備隊司令部ニ於テ予定シアリ 其ノ位置ハ海岸線ヨリ約ニ料所方ナリトナトナリトシ 事實ハ横橋上ニアリ 小生ノ経験上海岸線ハ第一ノ攻撃目標トナリ 必要已マラザルモノ外ニ料所以上内方ニ置ラシテ要スト認メ 水交社ヲ他ニ移シ此処ニ司令部ヲ設置スルトシ 不敵敵通信隊ノリ伴ヒ移部セリ 司令部要員ノ一部ハ第三十六總備隊ヨリ一部分割スルトナリナリ 其ノ細目ハ司令部ト同一ニ直々ニ取決メタルニ 残部ヲ云々ニ移部當時ハ僅カニ從者乘番共ニ在ニ處ナリ 再三再四ノ督促ヨリ漸ク應務四名ノ外ニ至クナリ 勿論残部整理ニテ中ニ要スルニ司令部

九月下旬

部ヲ煙ヲカリシヨ

二 諸施設該防備促進

丙 丙 八月三十日「セ」着ト告ニ第百二十五軍司令部及第

百二即司令部ト計要ノ打合セヲ行フ

次ノ所存在各部ノ長ヲ集メノ情況ヲ聴取シ諸工事ノ促

進ヲ督勵スルト告ニ續イテ各部ヲ巡視該視察シ評

細ノ指示ヲ與フ

(四) 河部砲山砲隊等校長以下現地指揮等班八月三十日着

其ノ指導ニ依リ更ニ防備ノ詳細ニ涉リ指示ス

(三) 戦司令部計略ニ戦斗電信機ニ3KFニ付テハ合用完成シテ

トノストトシテ河部等々ノ付ケテ作ラズニ依リ司令部表ニ中

土中或トシテ至急促進方ヲ施設部ニ要求書ヲ立 日ヨリ

三ツク一ト製

取掛トストトセリ

(四) 司令官及先任を謀略部が能く把握し現地指導等班ト共ニ  
ソコロバンニ至ル(九月三日)

因に三社ノ三日前第十六中隊トハ我軍駐定地近海軍部  
隊ノ巡視々察ヲ行ヒ情況ヲ聴取シ其要ノ指示ヲ與ヘ  
防備ノ名建促進ヲ要ス

同地ノ防備施設トシテハ艦飛行基地ノ耐弾型機室ガ共  
共介通定成レル外何事見ルバキモノナシ

高④ 基地ヲソコロバン村南ヲカビニ押ニ設クルコトニ決  
シテオレモツク北方コバレンシヤ飛行場設言中ノ片桐設

言隊ヲ至急同地ニ移部スルコトニ平記アリ

(片桐及言隊ニ無線連絡出来ズトラウク便ニ托シ連絡  
スルコトセリ)

司令官ハ水上機ヲ以テ四日ヲスリガオレヲ空中ヨリ視察セ



テレヲリ

第十六師団トノ作戦協定

(1) 敵情判断

ヲタクロバン<sup>レ</sup>飛行場ハ岬一杯ニシテ而シテ狭極使用價値  
輕ノテ小ナリ 故ニ敵ハ「ドラウグ」方面ニ上陸シ企圖シ  
「ドラウグ」方面ニ飛行基地ヲ占領スベシ

ヲ企圖

(2) 作戦方針

A. 水際戦ヲ実施ス

之ガ為海軍ハ飛行場及岬ノ付根附近ニ「コンクリート」

製成ト「ケカ」<sup>ル</sup>ル數基ヲ作ル

高射砲ハ飛行場市街間ニ設置ス

陸軍ハ「タクロバン」ヨリ「ドラウグ」ニ至ル間ニ陣地ヲ設ク

其前面ニ戦車壕ヲ構築ス

砲台陣地ハカトモシ(園)トラグ(ク)クハバン(海岸)南側  
ニ袖ニ陸シタル地ヲ占領ス(既ニ林麓ニ砲孔ヲ穴チテ陣地  
ヲ占領シアリ)

海軍ハ十~~五~~糧砲四門ヲ陸軍砲台陣地ノ西側ニ二門ヲ  
設置ス。

観測ヲ行ハ陸軍ト陸軍ト接シ該園ノ東南部頂上ニ設ク  
B 海軍ハト~~ラ~~グ沖ニ積雷約二十個ヲ浅深度ニ敷

敷設セ~~ル~~④基地ヲカヒ岬ニ射係ヲクタイ岬(アガク南方)ニ設管  
C 敵上陸セバト~~ラ~~グハ口間概々河ヲ沿ヒテ其

東西ニ三線ノ陣地ヲ占領力抵抗シテ、クハバン(西  
方)ノ複廓~~ノ~~陣地ニ立籠ル(抵抗線陣地ハ掃蕩中)  
其間戦斗司令ハ、クハカミニ通ス。

D 高津陣 第十六師團ハ既ニクハカミニ通スト約一ノ年

0457  
17

(1) 軍情相考慮

敵備ハ着々ト進涉シテ先胆盛ナリ

(附記)

サマル島ニ同師團ヨリニ中隊ヲカトバロガン(西山)

中央消息)ニ置キアリ

空軍ニヨリテ水道ヲ閉ジテ海軍ヲ視察シ

(ホ) 九月六日一日フレガスピーニ至ル(派遣隊長佐藤中佐同行有也)

イタロバン同様情勢取防備ノ促進ヲ豫措ス

陸軍現地松岡長ト作戦協定ヲ行フ

同地ニ松ノハ隊ノ陸軍ト打合ヒ上戦備ヲ整ヘハツ

高千穂砲隊ノ砲口ヲ沈黙取止マリシ後度ナリ  
陸軍ト作戦協定  
島北端ニ浸墨スルトトス

(1) 敵情判断

敵ハマヨシ山東側海岸ニ着クシテフレガスピーニ

着クアリ

一部

上陸ヲ企圖スル

(2) 海軍ハ④基地ヲ湾内トバタン島東側ニアル

砲台ヲ利用シ設ケル

魚雷艇基地ハカゲラレイ島東又ハ西水道ニ設ケ

ス

飛行機基地ニアル

海軍陣地ハフレカスピ山南西(市街裏側)高地ニ設ケ

領其地ニ既ニ戦斗司令部ヲ設ケ電信室ヲ設ケ

概不完成ニ近シ

(3) 陸軍ハ海軍ノ北方ニ陣地トシマヨシ山方面ヨリ来

ル敵ニ対ス

高旅團司令部ハマヨシ山西方山中ニ置ク(山ノ

北端ニ敵上陸ヲ防ス)

0592

0459

19

(ハ) 新ゴロノ島ニハ家ニ行クヤナク  
 (ホ) フレカスビノ浦行車ヲ終ヘ却會日九日司令官ハ「セブ」ニ  
 帰還先任考課ハ現地指導班ト共ニ同日「マニラ」ニ至ル  
 情況ヲ報告ス  
 情況報告ノ概

第四中隊地区の航空機

一、空襲前ノ情况

敵上陸隊報

九時先任参謀ロイテ方面外敵陽定報先ノ為マニテ

一三〇頃頃敵の第一航空機隊司令部及び第三三三特別機隊

地隊ヨリ刻々敵の心ニ上陸飛行場方面ニ進出中。至要

類焼却等ノ電アリ GKF社ハ一因突然ノ事ガアリ疑念アリ刻々報先

先任参謀ハ此ノ便乗即夜カ下ノ帰リ用ヒシ処山本航

空隊司令官ノ捜索中ニ敵影ヲ見ズトマナリ

22時ニ於テハ格力敵偵察機ノ影ヲ見ズ敵機は23時

ニ於テ敵機ハ上陸ハ誤報ナリニテトテ報ジ本隊

敵ヲ打切り十日22時ノ大部マラレニ引揚ケ

(三)

左機約八十機ナリ  
西敵機官報(十一月十三日十四日)

(1) 33 機司令部

司令部其出前ハツセ正方面ノ海上空ニ飛来被衝ハ三機撃  
司令ノ担当ナリレモ司令ハ之ヲ被衝機先任機長ニ計画  
實施セシメテアリタリ

司令部其出上先任機長不取敢之ヲ担当シ被衝  
機長ヲ拒致人命命令係達中ナリ

機長ノ被衝機長ノ飛行機ノ爆音ヲ聞キ怪シト見テ  
屋外ニ飛出シテ敵機飛行場ニ向テ急降下  
ナリ対空機銃之ニ射撃ヲ開始ス

此機長ヲ各部ニ官報致シ報ヲ奔スルモ、サイレンニ  
イヒテ電話ニテ下令ス

司令部 三木少将 避壕ニテ 司令部 幕僚共ニ

司令 前庭ノ 立木ノ下ニ 立テ

一。頃 電信室ヨリ フルパン見張 敵大編隊西ニ

電信室ヨリ 電報ヲ 報告ス 混信甚クシク 受

信困難ノ 有リシニ 達シテ 申立ナリ

其後 二日間 亦百ハ 杜テ 爲ニ 策ヲ 徒ニ 地圖大踏台 忠懐ノ 流ナリ

四 航空隊

平常 八日前 飛行訓練 午後 座子ヲ 例トス

敵上陸 誤報 際ニ 爲 飛行 偵察ハ 先ヨリ ナリ

依テ 爲 日ハ 日 誤ヲ 復 更ニ 午前 座子ヲ 実施中

九一。 九二。 九三。 九四。 九五。 九六。 九七。 九八。 九九。 一〇〇。

見張ノ 電報ヲ 航空隊 至

司令部 報告 司令官 八



上飛行場ニ出テ、ソウソロソロ飛行機ヲアゲナクテハ

ナラヌカナリト云ヒ、空ヲ打見守リ、アクリン敵

機突込ミナリ、慌テテ飛行機ノ進歩ヲ命ジシ

ルニ、中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

中ニハ航空地圖ヲ持チ、カズレテマシラレニ此ル途

水上基地

① 軍需部工外部、三潞基等ノ海岸諸施設ハ概テ一却  
破壊セラル。亦外部ハ一急トナリサレ方面ニ三潞基ハ航空隊  
西方地域ニ避難シ、人員ノ損害甚大トナリ

至地トシテハ炎上スレ異煙霧カナリ

② 在油船般ハ空襲ト共ニ至急出港セントセルモ、其大部ハ沈  
没スルノ破壊セラル。漸ク出港セルモ、其一部ハ沈没スル

部トシテモ、人員ノ死傷セラルトナリ

航空隊科機載般ハ沈没セルトナリ、被空襲セシテ、船後必チ暴走ヲ著  
却ル潜水水先ヨリ是ノ同取ル能ハズ、又連テラカレナリ

③ 上空偵察

司令官部トシテハ奇襲ヲ受ケタル為、警報ヲ出シタルモナリ  
且、日午後司令官ハ急遽一船ヲ伴ヒ、セグル海軍福部隊  
施設ヲ視察セラル

航空隊ニ於テハ其警戒一先隊門ニ在リ、危険ナリトシテ

隊内に入らざるが、司令官の概略情況ヲ聴取せらるレリ  
 ル。其間、案ノ空襲ヲ一昨、航空隊各門前ノ防

空襲ニ得遊セラレタリ

航空隊 指大社青 司令官ハワザワザ航空隊防空壕

ニ逃ゲ込ミ、果テシタリト喧伝セシムル事ナリ

各部隊ニ対シテ、未定ノ待避壕ヲ防空壕ヲ至急

完成セシム

司令部ニ於テハ、下士及兵士七名ニ通知、必要艦艇

機乗員ヲ指示、司令部附近ニ待避壕ヲ晝夜兼

行外ヲシムト共ニ不取敢ノ船艇乗員ノ避難ヲ指示ニ

在リ、戦斗司令部兼戦術、電信室トシテ、中政府

表山北側ニ指示ヲ、砲撃セシム 防空壕ニ入ル

在リ、指示ハ仲立、交渉、幕僚中ニモ早急ニ

隊内ニ於テ

アムモノル  
 幕僚令派ヲ司令官及下ニ  
 用催促進セシ有探ナリ  
 五日ニ至リ

(ホ) スリガオ地区空襲(十四日)

スリガオ地区空襲ニ續キ十四日、スリガオ地区空襲アリ  
 如アレバ、スリガオ地区空襲ニ續キ十四日、スリガオ地区空襲アリ  
 スリガオ港市街ハ火災ヲ起シ其大半ヲ焼失 派遣隊ハ  
 城外ニ移動ス 此ハ其附近橋孔ヲ壊スナリナリ  
 隠蔽地ヲ選ブ外ナカリキ  
 同地ニ在リシ魚雷艇及舟艇全部、被弾火災沈没 又、ホホ  
 一ルル島東山附近、茲リマサワレ島附近航行中ノ特別艇  
 潜航艇七隻ヲ沈没スル或ハ損傷ノ甚クナリ至リ漸ク一隻々  
 遭難者ヲ収容シマシムルニ帰還シ格ナリキ

山空松後ノ志置

(1) 敵KAB奇襲成功ニシ理由由経対策

(1) 33 通信隊ノ情况

(至り)

33 通信隊ハ三六號通信隊ヲ其儘受入レタルモノナリ

而シテ電信長七書長伊藤文田カハ應召ニシテ勤務移

テ急慢勤務ヲ欲スル朝ヨリ飲酒ニアルコト屢々ナリ

（本署長補特大本尉ノ進言）

電信長ノ斯ノ如キ者ハ他ニ斯ル不良ノ特務方ハ一

中リ他ノ隊内ハ二派ヲ生シ互ニ相反目レワ、アリ

司令亦六十歳ヲ越エ一言ノ訓戒モ與ヘズ 電信長

空ノ軍紀風紀ハ文系似概不其極ニアリト（補特大本尉

進言）

通信長謀麻蘭少佐九月五日頃司令官留守中ノ事

有任直々之情况ヲ調査シ改革ノ事命セシヲ以テ此  
 改ヨリナリトハ克ヘ長期ニ涉リシ隙止眼ハ急速ニ醒ムベク  
 アラス

裝備ニ未ダ假設ニシテ而モ知識老分ナク其後  
 司令部附派遣セリテ大ニ其面目ヲ一新セリ而シテ  
 電信長ハ割合ニ重要性ナキコトガスビニ上輸出セリ  
 (レガスビー派遣隊ハ  
 玉許ヨリ同公生所  
 帰還セリ)

(2) 見張通信系ノ困弊

カラス見張ハ敵機大編隊ヲ認メテ即刻電報セシモ電波長  
 送信機力弱シテ遠距離ノ情况ニアリ  
 此報ヲ受ケシコトハ通信隊ノレガスビー通信  
 隊ヲ至大ト見テ直々ニ中継シ却テノ日混信ヲ  
 起シ直々至難ニ陥リナリ  
 本件ニ関シテハGKFニ於テ是數置セラレナリ

(3) 近距離見張

7月21日ハ未ダ電探ノ裝備モナク見張トシテハ航空隊  
 内ノ見張ト、三六號中下部屋上見張ト、（電探用電柱之ナシ）小生ノ  
 経験ニ於テハ遠距離見張ハ其中向ヲ突破セザルハ  
 事モアリ又通信ノ達達等モアリテ之ノミニ頼ルハ  
 危険ナクナリ。依テ司令部進出後開キナリ。  
 航空隊司令及第三五軍大管根高級ヲ謀ル計ニ  
 決テリシニ道守通ナリ。此司令部ニ於テ電線電柱  
 概テナク巫賊跳梁地帯ニ派遣ニ其力モナクノ軍独  
 設置困難ナリ。不可ナリ  
 敵畑空襲後九月十八日大管根高級ヲ謀ル訪  
 内相談ニ慮ジテカクノノ軍大失敗ヲシテ司令部ニ  
 叱レマシテ。電話ノ架設ト警戒ト同シテハ陸軍ニ於テ

担当之件海軍に在り見張員ヲ出サシトノ申出アリ  
 早速ツセゴ市事衣ノ最良峰ヲ天山ト命名ス此処  
 ニ見張ヲ設置シ通信ハ電話並ニ無線トトセリ  
 然共電話ハ防衛司令部ト交換室ヲ設ル外ナリトナリ  
 声ニ(2)隊ヲ防衛司令部ト交換室ヲ設ル外ナリトナリ  
 通達ハ僅ク僅ク空襲ノ二三分前ニ通達スルニ止マ  
 又通達情状悉ク之ヲテハ正確地帯トナリ山林ヲ  
 通達之有故除却奉ノ有様ナリ  
 無線連続ハ別装束トナシ之亦通達情状極メテ  
 不良トナリ  
 右ノ如クシテ空襲予報ニ便値ナカリシモ其後ノ敵情南  
 位ニ相違有効ナリキ  
 其後電線並ニ無線ト飛行師製約ニ料ノ目ノ丸山ニ設備航空隊ト  
 直通電話ヲ以テ連続ナリ



(備考)

アノボニニ於テハ除眼見張ト電探見張ハ殆ンド同時  
 同價値ニシテ電探ハ故線業務一兩中ト号モ使用可能  
 ト云ヒテ優リ除眼見張ハ故線絶無。故線ノ  
 為時向見張ヲナシノ要ナキニ於テ優リナリ  
 故線存見ノ報告司令部ニ到達後概ネ三十分  
 ノ至十五分ニシテ空襲被テ受ケ。戦斗被ハ其要  
 報ヨリ希ニテ概ネ沙外ニ於テ激聲ニ付ナリ  
 晴天日ノトキノ晝間見張既續

除眼見張

九十料

同時存見

電探見張

九十料

高小生24名在勤一年半中數十回ノ空襲アリタルニ見張急  
 シタルトハ一回ニ十カキナリ(架空電話線切断ノ有通達モ)

防空アリシト一回(備考)

(4) 防空アリシト一回(備考)  
 ナトシテハ上陸後報ハ前ハ概ネ南方ニ於テ行ヒ東方ニ於テ敵除シテアリシ

④其他ノ対策

①飛行機ノ分散秘策

「セブ」飛行場ニ在ルヘ飛行機ハ全部消滅轉表林中  
 秘策ニシテトシ其後其目的ヲ達ス  
 マラウシ島飛行場ノ使用ハ陸軍ニ在テ預達ニ承知  
 セリシモ、南方艦隊參謀長視察ノ際同飛行  
 場使用ヲ懸念セシ間早ニ片附キタリ  
 依テ同飛行場對空防禦ノ為大隊防空隊（二十五機聯  
 隊十二基）ヲ派遣セリ

②防空壕ノ構築ト設置ノ限

各隊共「セブ」市街周辺ニ居住地ヲ求メ同地ニ堅固ナル  
 防空壕ヲ構築シ、必要ニテ之ヲ掩護スル、及

⑤遠距離偵察ノ欠如（参考）  
 タハテ敵上陸謀報當時司令官初ニ在テ平本航空參謀ハ遠  
 一級艦ニ付シテ遠距離偵察ノ必要ヲ力説シテ「AF」ニ在  
 飛行機ノ不足ヲ敵米艦ノ隊ヲ察スルノ爲ニ  
 理由トシテ仲之志ニセザリテ見ツケリ

見張水警隊其他外業負當直欠等ヲ海岸ヲ控レ同  
 地ニ防空壕又ハ待避壕ヲ新設或ハ陣所セシメタリ  
 高物資軍需品等ハ成心々之ヲ山側横孔ニ掩蔽セ  
 レタリ

(3) 舟艇ノ分散秘匿

「兵」艦ニ至ル現存舟艇ハ小型板帆船三隻大倉四隻  
 (?) 之等ハ海岸砂濱ニ引揚ゲ隱蔽偽装  
 されトモ不慮被弾スルモ沈没セザル様為シタリ  
 魚雷艇ハ「兵」艦北側リロフン海岸椰子林中  
 引揚隱匿スルニ敵ノ銃撃ニ遭ヒ被害マシキ有セ  
 島南北西各方面ニ分散秘匿スル為其地ヲ偵察  
 セシメタリ (兵カクテ匪情要キ極ムル陸軍駐屯地ヲ選ブ)

(4) 陸戦陣地

司令部は直後敵の未攻直中ヲ察シ陸戦陣地、  
至急準備ヲ要スト、建前ヨリ司令部一其旨  
申入レタリ。

司令部ハ直ニ應諾計ニ命セシ、着々計ニ北進  
スルコト陣地ニ就キテハ特ニ直接司令部ヨリ代防

司令部ハ竹田少将ニ再々四督促セルコトアリ、  
仲々計ニ至ラズ、不取敢司令部計ニ五ヨリ海軍地帯

ノ処ニ陸軍指揮官ニ陣地ノ構築ヲ要スト、  
之ニ掛ケタリ、

至ニ司令部ヨリ人負ノ檢出國難ナリ、  
ヲ以テ第一線陣地ヲ構築ス、

備後地方

(6) 陸軍兵器ノイテ

機銃ノ利用ニ地帯ハ冬ノ深雪南極ノ地帯ニ  
 機銃兵器ノ利用ノニハ氷雪凍結トシ高圧部ニ付シ  
 新兵器ノイテ要望ナリ  
 高圧部ニ交換シ不要兵器ノ機銃ヲ度々之ガ利用  
 ヲ圖リ小銃ノ機銃ニ極力之ヲ交換ナリ 之ガ為  
 機銃ノ一部ヲ交換條件トシテ機銃ナリ

復

第五中北赤地区大空襲

一北赤地区大空襲

當隊ニ配屬セルハキ特根引本部有部隊九月十八日頃ヨリ  
着ノ予定ナリト爲先任テ謀主計長ニ告出置ノ爲

出張

部隊ハ到着レテ司令部ノ命ニヨリ人員大部ヲ揚陸  
待機 且急需用品等ハ輸送船ヲ其儘配屬各地ニ出  
出セルナリトハトニ後更ニテリランハ格搭載ノ儘トナレリ  
二十一日。航空機(陸中赤地区空襲上同標ニテ)初日。航空機  
以機(航空機)敵艦ノマニラ、クラー、地区大空襲アリ  
先ヅ飛行場ヲ急襲シ次ニ在泊艦船陸上諸施設ニ  
移シ 被害甚大ニテ 飛行機ノ大部ハ煙矢ニ在泊艦船  
約百隻中其大部被害當隊ニ配屬セルハキ人員ニハ

34  
船中ド被爆ナカリシモ格載物件ハ火災或ハ浸水ノ有使  
用不可能トス

二. 左マニラ艦下部隊ノ處置

右ノ如ク兵器需品等ノ大部ヲ喪失セル在マニラ艦下部隊ニ  
対シテハ GKFノ特別ノ配属ヨリ在マニラ艦ヲ分割セラルハ  
マニラ艦ニ 野戦機ヲ 機材整備ヲ 後送機材ヲ  
現地進出ニ関シテハ「ガ」ヲ「ク」ロ「ン」ニ配属スルモノハ  
帆船「ガ」ス「ヒ」ニ配属スルモノハ「カ」ポール船砲台ハ  
帆船 其他ノ降リノ「ト」ニ定ナラシ 特ニ帆船輸送  
ニ特ニ為連綴基地ノ偵察ヲ依頼スル直ニ直ニ言施ス

三 中津地区再空襲

九月二十一日北津地区空襲ニヨリ中津地区ニ於テハ船隻ヲ  
 牽セラルトモ在泊艦船ハ規定通分敷セシメテナリ  
 然レ其ノ規定ハ司令部出前ノスニシテ未ダ暇ナリ  
 改正スルニ至ラズ 後テ其ノ分敷ハ概テヒサヤシ海ヲサマ  
 シル海ヲサマラスル海峽附近ニ止ムレリ  
 九月二十四日ツセブツブライラシレガスピル地区ニ敵機ノ空襲  
 アリ 分敷退避中ノ艦船殆ド全部沈没擱座火炎上ス  
 ムニ至リ敵近キヲ見テ急遽輸送中ノ艦船ハツブシ附近  
 ニ相次散集中セシメアリシ其ノ擱座甚大ナリ  
 先任参謀長ハ二十五日頃急遽ツブシガスピルヲ経テ  
 ツブシニ帰校セリ



(参考)

小生(先任多課)二十五年頃コレガスビレニ立寄リテ

派遣隊長佐藤中佐ノ依頼タノ如シ

日戦斗校四校(?)コレガスビレニ派遣セラルルニ隊長指宿

大尉校(共字校六十六期?)鹿兒島出身)ハコレニ立寄リ

リタル儘<sup>隊長</sup>他ノ若手共校ニ来リ有リ

コレガスビレ其ニ他隊長共中尉校同村初大尉ハ選修科出身

ニテ校ノ優劣考テ助ナリ

ニテト空軍ノ降参モト早ク

之ヲ希見テ戦斗校ヲ希速攻撃セシメタルニ戦斗校ハ

今ノ戦斗校ニ志願ナリ一校ニシテ力能ハス突入セシメ

他ハ逃ゲテ去リテ今ノ笑止ノ至リナリ

此ニ山本司令官ハ電報ヲ以テ上司ニ対シ報告ス

是ニ付時校ノ次ヲ適宜取計ヒテ得度ニ

第六 敵ロイノ島来攻

一 敵来攻前ノ情况

ハ 敵近キ兆候

(1) 十月上旬ノスルアニ見張隊ヨリ敵潜水艦ヲ見シキエノ出

漢ノ報知ヲ連日ナリ

当隊ハ在ラセテ水上機隊ニ依頼自方西端ニシテ海東

方海面ノ偵察ヲ実施シ西面有ルル見張隊ト連絡セシ

陸上機隊ハ山本司令官ノ率ニテ航空隊ハ引揚ゲ計ナリ

AF司令官附峰松下佐着任当隊ト連絡シワカニ至ラズ

敵ニ従事ス

(2) 中旬頃ニ至リ「スル」見張隊ヨリ左ノ報告アリ

東方水平線上敵機ヲシキ煤煙見ユ

航空母艦ヲ見シキ飛行機見ユ

之ニ対シテハ水上攻ニテハ能力不足ニ付陸上攻隊ニ傾家ヲ  
依頼スル(其結果ニテハ實施カシカハ否カハ記憶モ免クニ南  
敵奔見ノ報ハ受ケズ)

(3) 敵機散発的ニ出沒中印比島地區特ニ北方ビサヤ海  
「カモニク」海方面ニ於ケル輸送船機帆船ノ被空甚  
大ニモ「ロイヤル」島方面輸送至難ナリ

(4) 我方ノ作戦準備

(1) 當自隊ニ於テハ東正面「ロイヤル」島海方面ノ急速戦備

増強ヲ暫ク實現ス

A. 「タクロバン」ニ於テハ飛行場附近ノ「ト」ノ力略七分目

完成

B. マクローバニ市街裏山ニ掘孔ヲ穿テ物資ノ蒐集ヲ  
始メテ

C. 海軍担当タル陸軍ノ左翼陣地ノ構築ヲ完成  
シ

D. バレンシア飛行場ハ兩期ニテハ尚不時着場ヲ設ケ  
陸軍機ヲ駐留セシメ且警備隊ノ要ヲ

第三二設営隊(片桐中佐ノ率ユル軍人設営隊)ヲ  
マクローバニニ転進其村山行カビテ又岬(西山)行ニ

其地設定開始(地上連絡外トシテ構築セリ)

E. マクローバニ派遣隊長竹本大尉ヲ至急進出セシム

F. 奥有力ナリシマクローバニ三六警司令部下宣豊大佐ヲマク  
ローバニ方面海軍部隊指揮官トシテ派遣(途中挫折)

G. 薩城中心以下約十五名(二程砲門? 其他)先

奔隊トシテマシラヨリ十月十四日(?)シクロバン着(西陸三日前)

H. ドラテ沖教隊用トシテ在「セ」フンボアシガ行校當二十四日

十月月中旬初頭「ク」ロバン着(後帆船便)

(2) 此「セ」方面討てん共力、兵巻軍需品ノ輸送ニ概ハ敵隊ノ為難

況セ人々ノ附近島嶼ニ上陸匪賊ノ執拘果テ産生セザル

受ケワ、或ハ前途歩或救助隊ヨリ「セ」到着セリ、無事

到着(セ)セルセ、特根如隊ノ一部、十三艦隊艦隊、電探隊及

照準装置等ナキ十三艦隊方面砲四門及探察機

(3) 陸軍部隊ハ「セ」方面ヲ十七師團外、我軍備八割ヲ移シテ、但

戦間通信施設ハ未ダ有キ

(4) 此「セ」方面軍ニ在リ、且、越来決戦ヲ堅持セリ、第三十五軍ニ在リ、ハ

第三十師團「セ」ヨリ「ミ」ニシテ、西方面轉用カト「セ」リシガ方面軍

命令ヲ大部「セ」ミ、且、中野地ニ移部セシ、機部隊カカセ、シテ小ナリ

(1) 中部比島陸軍海陸軍部隊の情状

A. 7月10日地方の海軍部隊は第95防空隊長水田(特)

射撃中心とし能く訓練して士気概不旺盛

竹谷天射撃後更に中心ヲ持たせんと認め

B. 7月11日方面に於ては中東特根司令官ト山本航

空隊司令官同ニ感情問題(司令官ノ性格モアルモ常時

航空隊関係ノ横暴ニ不快、会ヲ持たせりタル為些少事

アリテ後甲内清ナリト山本司令官ト志持共々

多ク諍トハナリ、互ニ親交アリ、其為稍後

和を以テリ表面ニ於テ概不内情ナリ

其ノ他ノ部隊ハ未ダ敵進シ、意氣未だ盛ト云特根

C. 第5軍司令部ヲ始メ陸軍部隊ト海軍部

隊トハ能ク感情融和シ其ノ協力振リ、軍兵

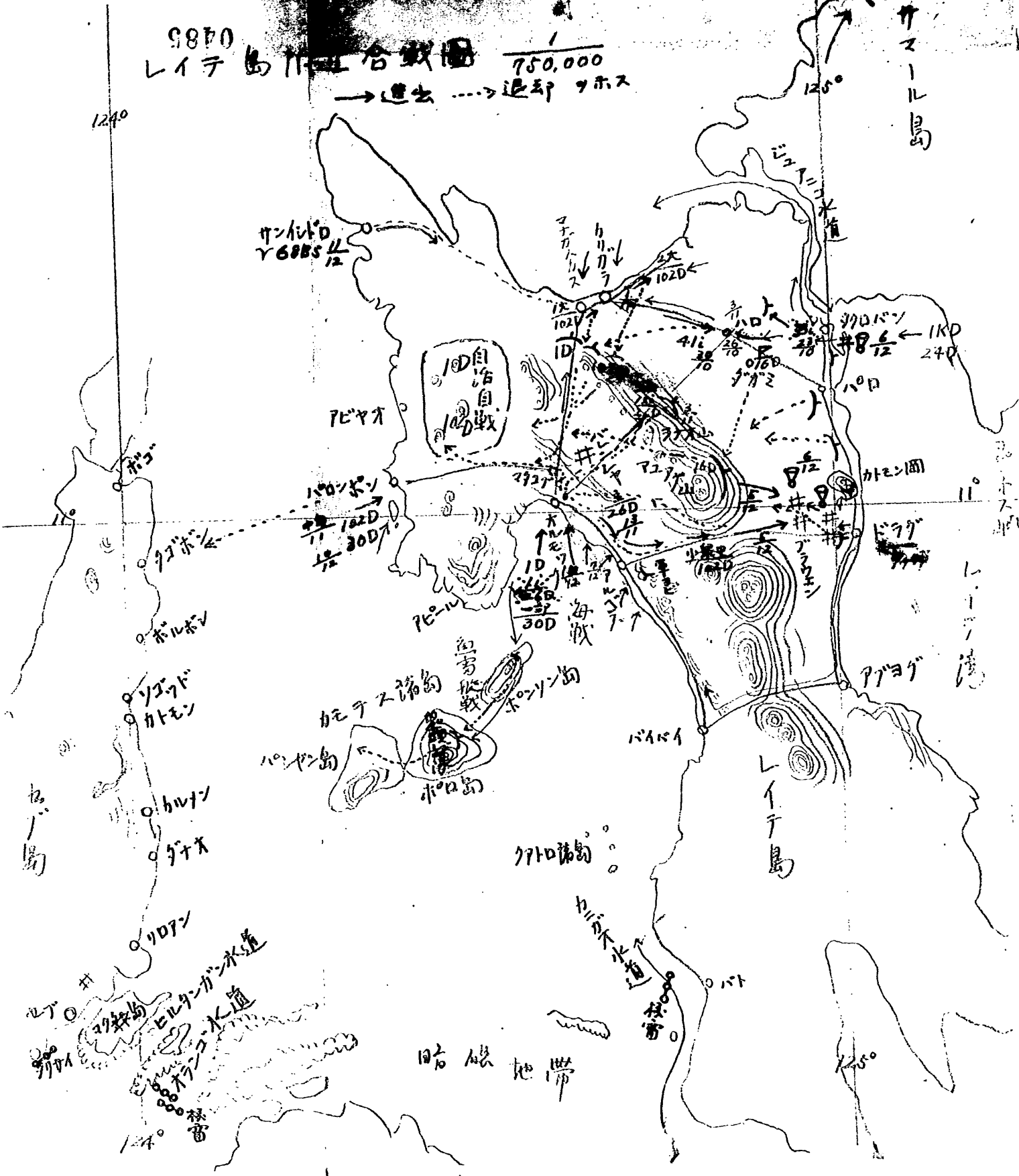
謀長ノ手記ニ見ル如ク擧テテ緊密ニ倒ラズ

8190

# レイテ島の戦い 総合戦図

750,000

→ 進出 ..... 退却 ヲホス



二、敵未攻

(1) 敵未攻ノ情况

0486

(1) 十月十七日早朝敵艦隊ノレイテ港ニ近接スル  
 ト見エシガ新島ニ向ヒ上陸用舟艇ヲ卸シ  
 同島攻略ヲ實施スルニ島見張シハ刻々其ノ  
 情况ヲ報告シツアリシガ上陸用舟艇近接ヲ報ジ  
 タル後天皇陛下萬歳ヲ電報ニテ傳ヒ信杜  
 絶セリ(終戦後一ノノ押書カトナリヤルヲ  
 聞ク) 他ハ玉碎

D、数回ノ大空襲ニテ敵近シノ威令般ノ戦闘意欲ハ急激  
 ニ向上シツ、アリ 特ニレイテ方面ノ戦闘意欲ハ強烈ナルニ  
 ノト認ム



セメント認ラレル

(2)

次ヲ掃海敵ヲ以テロイテ掃海ス

(3)

ナリナリ敵攻略部隊ヨリ掃海東方ニ出現シ敵KIB

ハ先ヅドラクババン<sup>ト</sup>ドラクバ<sup>ト</sup>地区ヲ<sup>ニ</sup>連続<sup>ス</sup>又三日間大

爆撃シテ<sup>其</sup>施設ヲ徹底的ニ破壊シ去リ<sup>電報</sup>告

(4)

大空襲ニ就キ十月十九日ロイテ<sup>ニ</sup>掃海東方ニ敵攻略部隊

出現ヨリ三日間艦砲射撃掩護ノ下ニ<sup>シテ</sup>ドラクババン<sup>ト</sup>飛行

場方面ニ水陸両用戦車ヲ先頭トシ大兵士ニテ上陸

シ敵行跡ヲ在部隊ヲ怒濤ノ押寄<sup>ル</sup>ニシテ妙<sup>ク</sup>一隊

ニ<sup>テ</sup>突破ス 我海軍部隊ハ遂<sup>ニ</sup>市街裏山

降地ニ後退ノ<sup>ニ</sup>至<sup>ル</sup>

ドラクバ<sup>ト</sup>方面ハ敵ノ攻撃正面ニシテ攻略部隊ノ大部

ヲ掃海シタル<sup>ニ</sup>如キ<sup>ニ</sup>海軍部隊<sup>ハ</sup>後<sup>ニ</sup>退<sup>ル</sup>且陸軍

(四) 我軍ノ情及陸上戦闘情況

(1) 敵ノ来攻ニ対シ我軍ノ外戦準備特ニ海軍部隊ニ

於テ準備スルヲ以テロバニ撤去部隊ニ僅ク先發部隊

十五名程出セルニシテ即ニ敵攻時僅ク二三日前ナリ

(5) 敵ハ数日ノ内ニシテロバニシテドラゴ山地ヲ根幹トシテ概

不悔山所地ニ占領シカトモニ固陣地ハ全ク孤立ノ

状態トナシ

(6) 更ニシテロバニシテ上陸部隊ハ尤モ北方ニ向テシテ

北水道沿山所ヲ確保兩山所ニ敵軍ノ門ノ對面ニ

兵隊ヲ配置セリ

(7) 一部ハサニル山所ニ向テシテ

(3) カトモの固一設置より海軍ノ本據地門及トドラグ  
 沖ノ敷設より本據高之又如ノ如ク敵トドラグノ地上陸  
 部隊ニ対シテハ何等ノ手ノ施ス術ナシ 要之地上陸前  
 進シ来ル敵ニ対シテカトモの固ニ至ル陸軍部隊自約十内  
 ガ本據戦シタル

(2) カトモの固ニ本據ルカトモノ手ノ施ス術ナシ  
 隊ハ既ナリ後逐隊退セラルノ止メナシ

(4) 然れども本據線ハ南方ノ敵ニ対シニ備ハレタルモ、豫想ニ  
 及シテ海岸線一帯ノ上陸セシ横ニ押サレタル

然レ制空権在塔名且泉島ノ一長澤ノ大ナリ有之并陸  
 ナリ圧制セラレタリ

(5) 軍司令部ノ豫想ハトドラグノ平原ニ本據ヲ約一ケル  
 持スルコトニナリタルモ、今豫想ニ及シ僅カニ自

白ニシテ中央山系ニ圧セリ。其出力僅ニ約千五百(ト)

トナシ

海軍部隊ハ白ニシテ地ニヨリ次第ニ後退シ今牛頭嶺

トニ据テヲ戦ミ中尉國司令部ヲ捜索シワシカ  
ミハ上ノ線ヲ經テ概不河ニ沿ヒラオオ山南  
方ニ至リ同地ニ在テ同中尉國司令部ニ向テ其ノ掩護

ニ任ズ

ニ命

別ニ隈井主計中尉ハ部下主計員ヲ率ヒラオオ  
山ヲ經テオオ山ヲ向テ後退中一山中ニ在テ急遽  
進出中ノ陸軍ハ一隊ニ隊(260)ニ命ジ同隊ノ去  
者ニシテ連シタルニヨリ之ヲ担当セリ(陸軍ハ去リ謀  
情未報者為當同地ニ在テ隈井主計中尉戰死)

第ニ六師團ハ

出島隊

(1) 我艦隊の戦外戦情況

(1) 當隊の準備は全う整はれし中、敵KdDの航空襲撃を受け、

大規模な米艦隊の襲撃を相率に警戒し、

十月十七日の敵艦隊の襲撃に際し、直ちに第三十五

軍司令官の直接命令に即して上海軍部隊の第十六師

団長に指揮を移す

(2) 南支那軍司令官の報告に、特務隊の連絡を取り先鋒隊を

深小連日其の半日、軍司令官の報告に、高知府に有る

(3) 十月十七日、捷号の襲撃に際し、純一、翌十八日、捷号

襲撃部隊の命令

當隊は、GKFの襲撃に、二十一日、自ラガスビー、激甚な襲撃に

アサハ、パン、パン、の襲撃に、島に、航路目標燈を点出

せし、更に、魚雷艇を、追って、同海峡に、襲撃、當り

高島燈台監視ハ二十九日迄實施セルモ、  
 西方面に遠く後援船隻搬入の法任セルモ、  
 自給の爲め及  
 敵機ノ未だ襲撃頻繁トナリ、魚雷機ハ遂ニ二隻共  
 被弾火災発生ガハ、  
 北島ニ上陸セリ

敵機ノ上陸果敢ヨリ、海軍ニ多ク外、我軍實施ニ快意  
 也。然レ、陸軍ハ北島ノ之ヲ掃蕩援即ノ舟搬約四下度  
 〇〇派遣ニ快ニ、尚隊ハ北島ノ舟搬舟搬著シラサリ  
 大砲一及ヲ交通艇用ニ、残是ニ其他合即、即  
 戦艦一、大砲三、水雷七、若衣指探ノ下ニ、激進  
 十月三十日、北島ニ、翌二十日、日ノオキ、セツク、二、到、有

其、津州電信機ニ、名、電信員、四、略、考、大、兼、努、  
 〇、津、直、由、州、電、信、機、一、名、電、信、員、一、名、ハ、陸、軍、部、隊



後カヒル通信班之合同也

又上月中旬海軍未附山根長程不中事に於て海軍

便乘直接カヒル通信班に有任同地海軍通信隊長

命也之同大尉ノ活躍并日見之ヲ軍司令部ノ威

謝揚スルハサレニ十一月下旬頃通信隊ニ直轄

隊ヲ受ケ隊長及中佐位ヲ充テ異地電報隊ハ全

ク破壊セラルルニ至リ海軍通信班絶ス

幸當時陸軍通信班使用可能ノ状態ニテリ

●全機ハ我ノ影射ニシテ不中事ナリ

51) 抑格用機ノ極力之ヲ秘匿セシメ敵機ノ飛来ヲ察知

シテ被害漸ク大ナリトシテ第一外敵ノ襲撃ハ次

ノ中至テ諒力ナラズ一時陸海軍共引撤退スル事ナリ

當機機ノ通信班ヲ破シ十一月五日頃停戦ナリ



(6) 第三次第四次より外敵へ通報を受け海陸軍共舟  
 艇より引揚がりしより大慌へし慌へし更ニシガレ舟在  
 ノ舟艇より大急名ヲオモウクニ派遣せしニ送ニ弟四次  
 外敵へ対シテハ向ニ合ハズ用外敵ヲ討テ且ツオモウクニ  
 殺セシムル舟艇七波浪高ク引卸シ不能ナリト爲  
 同外敵ヲ引揚ル人共之抑止不能切ニ陥ラシ  
 ムニ至リ

(7) 和艦陸軍中将第<sup>三</sup>五軍参謀長トシテ赴任ノ途當派  
 ノ魚雷艇二隻乗方整齊セリ 同行者軍参謀  
 三衣<sup>及</sup>第一中固多深長岡林方佐ナリ  
 司令官ハ第<sup>三</sup>五軍参謀長トシテ赴任ノ途當派  
 二隻艇一隻魚雷艇二隻ヲ派遣セリ 并前土  
 上旬迄半無事ナルモツク着ニ到着セリ

某日

出資 陸軍 司令官 司令 対 敵 魚 雷 艇 跳 梁  
 二 船 之 協 力 往 後 踏 ヲ 異 ニ ス ヘ ナ 旨 注 意 セ ラル  
 往 後 共 同 カ モ ナ 諸 島 北 方 航 路 ヲ 選 ビ タル 概  
 帰 途 敵 魚 雷 艇 五 隻 ( 推 定 ) × 待 休 ヲ 受 ケ 包  
 圍 攻 撃 セ ラレ タリ 年 報 ハ 委 士 反 擊 魚 雷 艇 ヲ  
 避 退 セ レ 年 報 ハ 果 中 攻 撃 ヲ 受 ケ  
 司令 戦 死 續 々 五 程 ( 推 定 ) 砲 弾 後 部 燃 料 消  
 シ ラ ン 中 突 上 沈 没 也 使 年 中 ノ 方 面  
 軍 中 心 多 課 及 索 夫 五 名 ハ コ ナ ン 協 島 氷  
 中 ン 使 務 付 ン 也 ン 帰 航 也